

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500156		
法人名	社会福祉法人 フジの会		
事業所名	グループホーム モーツァルトいのり		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区松原通2丁目1番17-1号		
自己評価作成日	平成27年2月11日	評価結果市町村受理日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成27年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『愛・開・創』を事業理念として、当事業所にかかわるすべての人々やものごとに感謝と敬愛の気持ちを持ち、ひろく社会に開かれた福祉の拠点として前例や固定観念にとらわれず常に前向きにモチベーション、ゲストが有する能力に応じて出来ることはしていただくという個々に役割をもった自立した生活を送っていただけるよう支援します。また、食事の献立から買物・準備を一緒に行うなど、ゲストと職員が一緒に作業を行うことで、コミュニケーションをとりながら家庭的な雰囲気でも過ごしていただけるように努めています。ご家族や知人の訪問、地域の方や併設施設との交流も多く、ゲストの今までの生活を大切にしながら地域の一員として安心して過ごしていただけるよう支援することを心がけています

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白い潇洒な建物で、館内にはモーツァルトの曲が穏やかに流れている。阪神淡路大震災当時の「いのり」も込めて事業所の名前がつけられた。・法人の理念「愛、開、創」が全職員に浸透し、行動基準書は独自のマニュアル本として質の高いサービスの提供がなされている。・明るいきらびやかな雰囲気には張り紙や飾り物はなく、長椅子コーナーでは入居者の方々の笑い声が絶え間なく聞こえている。・近隣の自治会、婦人会や民生委員などの協力を得て地域の夏祭りや餅つきに参加したり、保育園児や女子高生が訪れて歌や手遊びを楽しみ、交流を図っている。・食事づくりは何か食べたいか希望を聞いて、毎日一緒に買い物に行き、できる方には調理もお願いしている。・一人ひとりの想いにそったケアプランを話し合い、自宅と同じように安心して過ごせる居場所となるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツァルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『愛・開・創』の理念のもとゲストのニーズに合った細やかなサービスを実践している。また行動基準書によって、全職員が理念を共有し意識づけしている。	法人の理念「愛、開、創」に基づいて書かれた行動基準書の前文を毎朝礼時に読み、月1回の職員会議では理念を具体化し、更に深く掘り下げて話し合っている。接遇、介護などがマニュアル化されており、実践の手本となっている。口角を上げて笑顔で話すことを大切にしている。	評価項目では「地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり」と記載されています。母体法人の理念そのままではなく、独自に地域の関係性を重視した事業所の役割や意義が盛り込まれた理念が望まれます。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買物や散歩の際に、近隣の方とあいさつや会話を交わしたり、自治会行事への参加や婦人会との廃品回収等、地域との係わりを持つよう取り組んでいる。	自治会に加入し、餅つき、夏祭りなどに参加している。婦人会から花やプランターを貰って一緒に園芸や工作のボランティアを受けている。近隣の保育園からは歌や手遊びに、女子高校からは合唱に来てもらい交流を楽しんだ。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の給食会へお邪魔して、地域の方へ施設の紹介などを行ったり、廃品回収への参加、また近隣の方の行事へのお誘いなど、地域への取り組みに繋がっていきけるよう努めている。	/	/
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催し、事業計画に基づいた利用状況等の報告やゲストの日常の様子などを報告している。また参加者からの意見をいただき、サービスの向上に取り組んでいる。	婦人会長、民生委員、あんしんすこやかセンター職員、学識経験者、利用者と家族がメンバーとして参加している。事業所内の報告、地域の方からのご意見や行事情報、本人や家族からの要望などを話し合い、議事録は当日欠席された家族には来所時に見て頂いている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区のGH連絡会に参加して課題の検討や情報の共有を行っている。また、区が主催する連絡会や研修会等に参加して連携を図っている。市担当者には随時相談を行い、情報収集を行っている。	週3回、神戸市からの出張相談窓口の部屋を1階に設けており「安心すこやかルーム」として、近隣住民の相談に対応している。行政主催の連絡会や研修会に参加し、良好な協力関係が得られている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っているが、法人内や事業所内でも身体拘束についての研修を行い、職員もその意義を理解してケアを行っている。	2階と3階がグループホームとなっており、入居者も職員もある程度自由に行き来している。1階のデイサービスでは人の出入りが多く、家族に説明した上で施錠している。テラスと庭は開放されており閉塞感はない。法人全体で毎年研修を行っている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツァルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や事業所内でも高齢者虐待についての研修を行い、身体的虐待だけでなく心理的虐待についても見過ごさないよう言葉遣いなどにも気を付けるよう努めている。	言葉使い、不適切ケアを気づいた場合には指導している。神戸市のDVDを使用して研修したり、新聞での事例を話し合ったりしている。日々のケアの中でも注意し周知徹底を図っている。	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居されているゲストの中には制度を利用している方はおられないが、必要な場合には支援できる体制をとれるようにしている。	現在、成年後見制度の利用者はいない。今のところ家族の方々がよく面会に訪れており話題にはなっていない。年間研修計画に入っていない。	今後、一人暮らしの方や高齢者夫婦が増加し、制度の利用が見込まれます。社会福祉協議会や行政の関係者と相談して研修の機会をつくり、職員の理解を深めていかれることを期待します。
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明したうえで不安や疑問点を尋ね、理解・納得をいただいたうえで契約を結ぶようにしている。	契約時には本人や家族の不安や疑問が残らないように時間をかけて丁寧に説明している。金銭面や医療健康関連の質問が多くある。事業所でできること、できないことなども説明し納得を得ている。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にゲストやご家族が参加し、意見や要望をお聞きしてサービスの質の確保や向上に努めている。また、来訪時や面会票のご意見欄などでも意見をいただいた時は会議等で話し合い、運営に反映させている。	タクシー利用の際、事業所の目印が分らないという家族の意見があり、塀に看板を取れ付けた。園芸をさせてほしいとの要望がありトマト、オクラ、バジルなどを植えて収穫も楽しんだ。家族の面会時に直接意見や要望を話し合っている。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の職員会議に出席し、職員の意見や提案を聞く機会を作り運営に関して反映させている。	朝礼は、理念や申し送りの他、各職員の想いや意見を話す大切な時間としている。毎月1回の職員会議には、毎朝献立を決めて食事を作ることや編み物の提案、勤務時間割の変更など職員の意見を取り上げて実施した。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には定期的に面談を行い、管理者とその内容を確認している。また、面談を行い運営や就業環境の整備等に反映させるよう努めている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツァルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での定期的な研修実施、職員会議内での研修実施を行っている。またフォローアップ研修等のOJTを行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行ったり、法人内での他事業所への訪問研修や他グループホームとの交流などを行い、サービスの質の向上へ繋げている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面接の際にご本人の意見を大切にするため、ご本人とご家族別々にアセスメントを行い、ご本人の困っていることや要望に近づけるよう、安心して生活していただけるよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面接の際にご家族の思いを理解しながら意見に耳を傾け、困っていることや要望を一緒に考えていくことで信頼関係が築けるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に必要と思われる支援に関しては見極めている。また、ケアプランも暫定で作成し、ご本人が徐々に施設に馴染んでいただいているから必要になる支援についても対応できるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をしていただく中で、職員がゲストの出来ること、出来ないことを係わりによって見だし出来ることは続けて行っていただけるよう支援する。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活をしているうえで必要な情報に関しては電話等ですぐに報告を入れるようにしている。また、なるべく訪問して関わりをもっているように取り組んでいる。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的買い物や外出をすることによって、近所で暮らしていた方については馴染みの場所や人を忘れてしまわないよう支援している。	毎日の買い物や散歩で近所の人と挨拶や立ち話をする事が多い。馴染みの喫茶店に行ったり、店主が来て昔話を楽しんでいる方、日曜日には家族や友人が誘って教会に行く方がいる。これまでの人間関係や地域社会との関わりが継続できるよう支援に努めている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツアルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	ゲストの性格や相性などを職員が把握し、共に助け合 って暮らしていけるよう支援している。また、孤立しが ちなゲストに対しては職員が声をかけて他ゲストと関 わるように支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフ ォローし、相談や支援に努めている	現在は転居に伴って退居された方はおられたが、転居 先の施設へ情報を提供するとともに、こちらでの生活 の様子などをお伝するなどフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いや希望、意向を聞き取るよう にしておき、困難なゲストの場合はご家族に聞き取り 、本人本位なケアに近づきよう努めている。	契約時には、職員2名で自宅に伺い、本人と家族と分 かれて、生活歴や本人の好きな事、趣味、やりたい事 等を聞き取り、仮プランを作成している。その後、家 族、本人、を交えて、話し合い、思いや意向を確認し 、ケアプランに反映させている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接の際に生活歴やサービスの必要性などを アセスメントしている。また、入居後も日々の会話 の中で収集した情報に関しては、記録し職員で共有す るようになっている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを尊重し、本人が出来ることを 暮らしの中で発見し、職員が共有して把握できるよう 努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	カンファレンスにはご本人とご家族の意見も伺って おり、職員の意見も話し合うことにより介護計画に 反映させている。	朝礼や連絡帳、アセスメントの聞き取りは行ってい る。毎月の担当者会議で計画作成担当者が中心とな り、関係者と話し合い、モニタリングし、介護計画 を作成している。3ヶ月毎に見直しているが状態変化 等の時は期間に関係なく対応している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や 介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や対応を支援経過記録に記入し、職員間 での情報共有やケアの見直しに生かしている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツァルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況やニーズに合わせてDSでの行事への参加や受診や往診の支援、訪問理美容等に取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関係者と協議し、ボランティアの交流や行事への参加等を行っている。また、地域の美容院や郵便局の利用なども行っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診の他、ご家族の協力のもと、入居前からの地域の主治医への通院を継続されている方もおられる。	24時間体制の協力病院の他、以前からのかかりつけ医に家族の付き添いで通院している方もいる。急変時等は事業所で支援し、点滴等の医療行為が必要な場合等も、デイサービスに勤務の看護師に指示を仰ぎ、迅速な対応に努めている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、グループホームに常勤している看護職はいないが、日常の体調の変化など健康に関することは日中であれば併設のデイサービスの看護職員に相談し、指示を仰いでいる。必要時には、受診に繋げ、早期発見・早期治療に努めている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には地域連携室に連絡し、日常の様子や対応など情報共有を行う。また、退院前にはカンファレンスにも呼んでいただけるよう確認し、退院後も統一したケアを行えるように支援を行う。	医療関係者等と誤嚥性肺炎で入院した方について情報交換をしたり、入院状況の確認にも伺っている。退院時には主治医、看護師、家族を含めた退院前カンファレンスをもち、福祉用具等の準備をしたり、早期に退院の運びとなるよう医療機関と連携している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、ご家族に施設で出来る範囲を契約時にお伝えしている。また、尊厳死を希望されているゲストに対しても職員と病院関係者で情報の共有を行っている。	重度化や看取りの経験はまだないが、今後、重要な課題と捉え取り組む体制を整えている。契約時には、本人、家族の意向を聞きながら事業所ができる、出来ない事を十分説明し、納得のいくケアの提供をしている。	今後、重度化や看取りにむけての取り組みについて、家族や本人のニーズをくみ取りながら、体制を整えていく努力が求められます。方針の共有や統一を図る為、文書化する事も必要かと思われます。

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツァルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故の対応も年間研修計画の中に入れ、研修を行っている。また、随時対応方法を職員間で確認しあっている。		
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の際の避難訓練を行い、職員間で避難誘導や初期消火ができるよう訓練を行っている。また、災害の発生に備えて水や食料品などを3日分保管しておくようしている。	防災・災害プロジェクト会議の委員が中心となって、年2回、火災・消火訓練を行っている。次回は、利用者、地域の方も参加して放水や初期消火の訓練の予定がある。ベランダには避難器具、非常階段が2か所ずつ設置されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゲスト一人ひとりに合わせて誇りやプライバシーを尊重した声掛けを心掛けている。また、法人全体でプライバシーの保護や人権擁護についての研修を行い職員で共有するように努めている。	法人の「行動基準書」の中にある基本マナー、言葉使い、尊厳について等、毎月研修を行い、自らも学習した頁に印をつけている。2年毎に基準書を見直している。一人ひとりの尊厳を大切に、プライバシーに配慮した声掛けを重視している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゲストの意見を尊重し、日常生活の中でその言葉や態度によって自己決定していただけるよう支援している。また、自己決定していただけるような声掛けを行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゲストの生活のペースを大切にし、食事や入浴・排泄等、体調や気分に合わせて柔軟に対応するように努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣、外出の際にはゲストに服装を選んでいただくように声掛けを行っている。また、散髪に関してもご本人の希望で訪問理美容を依頼したりしている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツアルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常にゲストが食べたいものを聞き取るようにしており、希望によっては献立を切り替えることもある。また、食事の際には出来る方には盛り付けや配膳作業なども手伝っていただいている。外食なども定期的に行っている。	毎朝、何が食べたいか希望を聞き、2, 3名で近所のスーパーへ買い物に出かける。その場で献立が決まる事もある。えんどう豆の筋取りや机拭等を積極的に行っている。お酒の好きな方にノンアルコールビールで対応した事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	契約時に聞き取りを行った減塩や水分制限などの注意事項に加え、好き嫌いの配慮などを栄養バランスを考慮しながら行っている。また、食事量と水分量に関しては毎日記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはうがいをしていただくよう声掛けを行い、夕食後には居室の洗面所で歯磨きをしていただき清潔保持に努めている。また、2週間に1度訪問歯科の検診を受けており、口腔ケアとチェックを行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さず、その方に合ったトイレの方法を職員間で情報を共有し、トイレでの排泄が継続して行えるよう支援を行っている。	トイレに行きたいサインを観察し、さりげない声掛けと誘導で無理なく行けるよう支援している。水分制限がある方や自己導尿されている方の排泄チェックは見逃さず、そっと見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	しっかり水分を摂っていただけるよう働きかけ、また食事にも野菜を多く摂っていただけるよう工夫をして予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴を基本としており、ゆったりとゲストのペースに合わせて入浴をしていただけるよう支援している。また、体調不良や気分も考慮し入浴日をずらしたりする配慮も行っている。	午後から、毎日入浴する方もいれば、自分のスタイルで、2, 3日置きに入浴する方、又、1時間近く、時間をかけて、ゆったり入浴する方もいる。足を伸ばして入浴できる個浴風呂に大満足の方もいる。職員はそっと様子を見ながら、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゲストの生活のペースを大切に、就寝時間も起床時間も体調や状態を見てその方にあった休息がとっていただけるよう配慮している。		



自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツァルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ゲストの薬の説明書に関しては個別ファイルに保管し、職員が内容を把握できるようにしている。また、ゲストの状態によって薬の変更があった場合は連絡ノートにも記載し、職員全員で確認するようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、食事の準備や洗濯、掃除など一人ひとりに合った出来ることを生かして取り組んでいただけるよう支援している。また、ご家族にも協力していただき、編物など自宅にいる時と同じ趣味が続けられるように取り組んでいる。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩など、希望者には毎日でも行ってもらえるように努めている。また、近所の喫茶店への外食や遠足時の回転ずしなど、特別な楽しみも持っていただけるような外出支援を進めている。	近隣住民の入居者も多く、毎日の買い物や散歩の時は知り合いの方からの挨拶や声かけで会話がはずむ。皆の希望で初詣は和田宮神社へ、遠足は動物王国等へ出かけた。外出時のアルバムには笑顔の写真であふれている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にゲストには現金は持たせないことを契約時にお願ひしており、必要なお金は施設が立替え、お預かりしないようにしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方には随時支援している。携帯をお持ちの方は自由に連絡を取られている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりを共有の空間に取り入れ、また間接照明を使用し光による不快を与えないような工夫を行っている。また、観葉植物や季節の飾りなどゲストにとって居心地のよい場所となるよう配慮している。	リビングは広く、掃除が行き届き、清潔感がある。壁面はシンプルに間接照明で柔らかな光となっている。ソファで会話を楽しんだり、ベランダに出て、洗濯物干しやプランターの花の水やり等している。1階には庭があり、皆で植えたブルーベリーやローズマリーが根付いている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツァルトいのり

評価機関:CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂の席を工夫するなどゲストが気持ちよく過ごしていただける居場所を作るように努めている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、自宅で使っておられた馴染みのあるベッドや家具を持ってきていただき、ゲストが落ち着いて生活していただけるよう配慮している。	居室は明るく、仏壇や写真立て、整理タンス等、馴染みの物を持ち込まれ、心落ち着く部屋となっている。居室の温度とリビングとの温度差がない様、配慮したり、加湿器や濡らしたタオルを置いたり、湿度にも配慮している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゲストの状態を把握し、必要であれば無料でベッド用の手すりを貸出したり、安全で自立した生活が送れるように、工夫している。		